



在日大韓基督教会
宣教100～110周年標語

감사의 백년, 소망의 백년
感謝の百年、希望の百年
(데살로니가전서 5:18)

発行所 **福音新聞社** (1部100円)
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎ 03-3202-5398
発行人/趙重來・編集人/金柄鎬
fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)

＜第10回 WCC 釜山総会＞

いのちの神よ、私たちに正義と平和へと導いてください

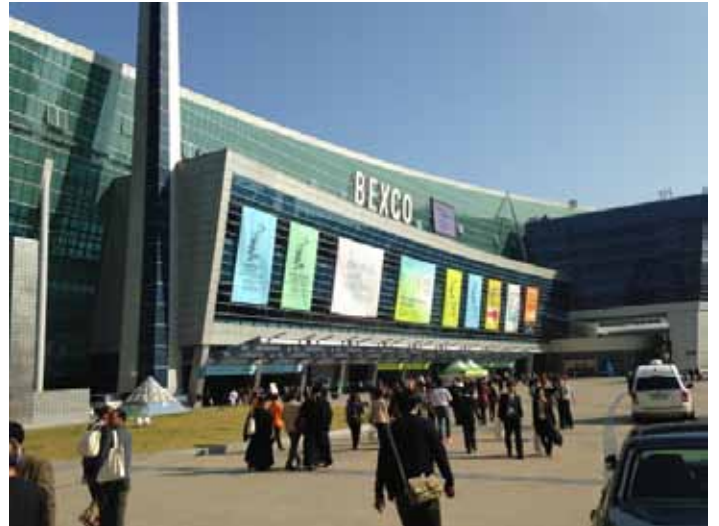
全く予定していなかったWCC第10回釜山総会への出席を命じられたのが、去年の10月の半ば過ぎ、開催が2週間後に迫った時点のことだった。

東アジアでの初めての総会、しかも祖国である韓国での開催ということで、WCC総会への出席に興味がなかったと言えば嘘だが、今後数十年にわたって世界のエキュメニカル運動の指針となり、神学的な論議に引用され続けるような大イベントなど、自分とは遠い世界のことでありと割り切っていた。



滑り込みセーフで代議員の変更手続きを終えて向かった釜山の BEXCO で、会場の正面に英語、フランス語、スペイン語、韓国語など各国の言葉で書かれた「いのちの神よ、私たちに正義と平和へと導いてください」という主題が印刷された巨大ないくつもの旗がはためくのを見たとき「ああ、ひとつの神のもとに、本当に全世界から主の民が集められたのだな」という感激に、視界が涙で曇った。

残念ながら飛行機の関係で開会礼拝は逃してしまったが、初日午後の開会式で披露された韓国教会によるプレゼンテーションは、圧巻であった。北米教会による宣教から平壤大復興、日帝植民地時代と3・1独立運動、朝鮮戦争、そして戦後の教会成長の歩みが、映像と音声、音楽と舞踊など、あらゆる視聴覚的な方法をもって、民族文化の色彩たっぷりに表現された、実に見事な作品だった。在日コリアンではあるけれども、自分もそこに謳われている韓国キリスト教の系譜に連なっているまた一人であることに感激を覚えながら、これ



ほど大がかりな舞台を準備することを可能にする韓国教会の底力を感じた。開会式だけではなく、総会の運営全般にわたって、韓国教会のホストとしての気合いの入りがひしひしと伝わってきた。会場の巨大さや準備の用意周到さ、動員されたスタッフの数、参加者へのきめ細やかな配慮など、これまでのWCC総会のレベルを一段引き上げた、との評価も聞かれるほどだった。

全世界のキリスト教関連団体の展示場である Madang には、全国教会女性連合会がブースを出し、活動の紹介と展示を行っていた。朴栄子総務がプレゼンテーションを行う間、ブースには趙重來総会長、金柄鎬総幹事をはじめとして、在日大韓所屬の参加者や、在日大韓ゆかりの方々（楊炯春牧師、鄭淑子牧師など）が30人ほど集まり、賑わった。



これほど多くの在日大韓関係者にWCC総会会場で出会えたことに感激しながら、これも釜山開催のWCC総会ならではの出来事だった。（次号に続く）

（報告：許伯基牧師、つくば東京教会／総会事務局幹事）

＜第95周年 2.8独立宣言記念式＞ 在日本韓国 YMCA で挙行

1919年2月8日、東京では留学生たち（600人）が中心になって、違法な民族統治を拒否し、自主独立と民族自決の意思を世界万国に知らしめた「独立宣言」が、在日本韓国 YMCA で宣布された。

この2.8独立宣言は、本国での3.1独立万歳運動の導火線と直接的な契機と母体となったし、同年4月には上海臨時政府樹立という貴重な実を結び、1920年代の青年と学生たちによる抗日闘争に決定的な影響を与えた。さらに、この独立宣言の崇高な精神は、祖国の光復はもちろん、大韓民国の建国精神にも完全に染み込んでいる。

この2.8独立宣言の精神を継承し、祖国と在日同胞社会の和解と協力、そして平和で公正な韓日両国の発展を図るために、今年で第95周年を迎えた記念式は、例年と同じく、東京にある在日本韓国 YMCA で行われた。今年も、95年前と同じく大雪の中で行われたが本国と日本からの来賓と参加者が大勢であった。



まず、金秀男総務の司会の下で、東京韓国学校オモニ合唱団による「2.8独立宣言の歌」、国民儀礼、殉国先烈と先輩指導者たちに対する黙祷後、金廣照理事長の開式辞、李丙珙駐日本大韓民国特命全権大使と李景根大韓民国国家報勲處報勲宣揚局長の開式辞、裴重度副理事長の聖書奉読、金健牧師（関東地方会会長、川崎教会）の祈禱、韓勝宇在日韓国留学生連合会会長が2.8独立宣言文を朗読した。引き続き、朴維徹光復会会長・林三鎬在日本大韓国民団中央本部副団長が致辞をしてから、特別順序として東京韓国学校オモニ合唱団による「アリランメドレー」・東京韓国学校合唱団カンタービーレ学生たちによる「明るく輝く歌」が披露された。最後に、ソウル YMCA 表用垠名誉理事長（元老牧師）が祝祷をした後、在日本大韓民国青年会中央本部の徐史兎会長の引導で、一同が万歳三唱をして終わった。（報告：編集部）

＜西南地方会＞ 別府教会で 新年「正初査経会・都諸職会」



去る、1月12日（主日）～13日（月）、西南地方会では「2014年度 西南地方会 正初査経会及び都諸職会」が伝道部（部長：権寧国牧師、福岡教会）主催で別府教会（担任：辛治善牧師）において、64人が集まり、開催された。

開会礼拝は、朱文洪牧師（小倉教会）の司会、姜富子長老（折尾教会）の祈禱後、別府教会の青年たちによる特別讃美が捧げられた。その後、講師である洪性完牧師（前総幹事）は、ダニエル書を通して主題である「神様への誠実」を熱く語った。まず、「神への真実に生きる」（タニエル書1：1-21）という題で洪牧師が講演をした。その後、別府教会が用意した愛餐を通して新年挨拶と交わりがもたれた。

そして、崔榮信牧師（宇部教会）の司会で、金定明長老（同教会）の祈禱後、洪牧師がタニエル書2章を中心に「聖書の歴史館」という題で講演した。その後、金明均牧師（地方会会長、福岡中央教会）の司会で、諸職会が開かれた。そこでは、各教会の2014年度のビジョンと課題などが紹介され、全員が祈った後、李恵蘭牧師（プレジレント伝道所）の晩祷をもって一日目のプログラムを終えた。

二日目は、各自が部屋で早天祈禱会を持ち、朝食後、教会に移動して、鄭在植牧師（下関教会）の司会と李圭哲長老（折尾教会）の祈禱の後、再び洪牧師が「苦難と信仰」（タニエル3：13-30）という題で講演を行った。引き続き、質疑応答後の閉会礼拝では、鄭守煥牧師（折尾教会）の司会と金貞子長老（小倉教会）の祈禱後、講師は「神の手とイエスの指が書く字」（タニエル書5：13-30、ヨハネ福音書8：6）という題で説教して正初査経会を終えた。最後は、崔允聖按手執事（福岡教会）の祈りで昼食をして、それぞれ解散した。

（報告：権寧国）

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様のお会議及び宿泊研修（50名）も可能。
・スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】

関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャンゴ】

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025

※会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税 込	平 日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200（宿泊者価格）		

＜関西地方会＞ 京都教会 讃美と証しの集いに感謝

2013 年 12 月 1 日（主日）午後 2 時より、京都教会において、約 120 名の参加のもと林海哲長老（光州東成教会、湖南神学大学音楽科教授）による讃美と証しの集いがもたれた。林長老は、延世大学とローマ国立音楽院卒業後、ヨーロッパで活躍されたが、2011 年 8 月、韓国において心臓移手術をうけた。しかし、手術後も音楽活動を通して、主に再び生かされた生命を感謝し、讃美と証しの働きをしている。

それで、韓国国内はもちろん、日本や香港等、様々な教会で讃美と証しをし、今回 11 月 30 日（土）には、「特別養護老人ホーム故郷の家（京都）」において集会をした後、12 月 1 日の主日の午前は、在日大韓基督教会京都南部教会に出席した後、京都教会において恵みのときを共に分かち合った。



林長老は、「イエスの心臓で」（ガラテア 2：20）という題で証しをし、韓国歌曲及び、「Glory」「一度は死にし身も」「子羊たちよ恐れなで」「キリストにはかえられません」等を素晴らしいバリトンで讃美した。この集会には、「故郷の家」京都の職員や日本の教会員、ノンクリスチャンも多く出席して、参加者一同、感動と恵みの時を共にもてた。今後の林長老の健康と働きに対し主に祈り、尊き伝道の間を与えて下さった主に感謝する。（報告：兪正根）



新刊 礼式書 改訂版

- ・韓国語・日本語対照
- ・すべての礼式に応用
- ・全国の個教会で活用可能
- ・1冊 2,000 円（送料別）
- ・お問い合わせ：総会事務所

03-3202-5398

在日韓国・帰化人・再婚希望者専門

芦田ルツ結婚相談所

祈りと心尽くして！

出会いからご成婚までお世話いたします。

代表：崔貞淑（神戸東部教会勸士）

〒659-0012 兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町 10-35-504

TEL：0797-34-6814 / FAX:0797-38-6868

URL www.ar-k.jp / e-mail: gen@reboth.jp



＜関東地方会＞ 水戸教会 4 代が家庭集會に参加



関東地方会の茨城県にある水戸教会には、4 代が一緒に信仰生活をしている張照雄執事と徐仁順勸士の家庭がある。特に、この家庭では普段の家庭礼拝の他に、年に一度、日を定め水戸教会で特別な家庭礼拝をしている。この礼拝には、教会に通っている家族はもちろん、教会に通っていない義理の息子や嫁、孫、さらに親戚まで、お婆さんからひ孫まで集まる。

昨年の 12 月には、親族合わせて 21 人が水戸教会に集まり、韓在文牧師の導きのもと、讃美をささげ、今まで導いて下さった神さまの恵みに感謝をする家庭礼拝を行った。韓牧師は、この家庭が礼拝をするたびに説教を通して、「今、家族の半分は毎週教会に通っているが、半分の家族は時々教会に出ているが、一日も早く全家族が毎週教会で礼拝ができるように祈っている」と語った。

張照雄執事は、3.11 大地震時に賃貸で借りていた教会の建物が壊れて礼拝する場所がなくなった時、本人の事業所の名義を借りて、新しい教会の建物を購入するのに決定的な役割を果たした水戸教会の中心的な教会員である。また、感謝すべきことは、主に仕えることに献身的であり、徐仁順勸士とともに、彼らが運営する事業所にも神さまが注いでくださる恵みを見て、多くの信徒たちが信仰と献身に大きな模範となっている。これらのことについて韓牧師は、「在日大韓基督教会のすべての教会の信徒たちの家庭が、この家庭のように神さまと教会の中で模範的な家庭になり、日本の宣教に大きな土台になってほしい」と言った。

（報告：韓在文）

豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 呉永錫（東京希望キリスト教会 長老）

四谷本店：東京都新宿区四谷 3-10-25 Tel. 03-3354-0100

＜西部地方会・兵庫教区＞ 第30回「日韓交流信徒大会」開催

去る1月13日(月)に、在日大韓基督教会西部地方会・日本基督教団兵庫教区共催による「第30回日韓交流信徒大会」が教団甲東教会で開催された。この大会は、1984年に在日大韓基督教会と日本基督教団との間に結ばれた宣教協約をふまえ、協約の実施をめざし、1985年以来、毎年1月の成人の日に開催してきたものである。

今回は第30回という記念大会となった。当日167名(西部地方会47名、兵庫教区120名)というたくさんの参加者を得た。開会礼拝は音楽礼拝としてささげられた。菱田聡一郎(教団甲東教会)大会委員長の司会で進み、祈り、朗読、聖歌隊合唱、独唱、会衆讃美と全会衆が参加する形で主イエスの生涯を辿った。その中で、「出来事の背後に」と題する西澤他喜衛牧師(教団甲東教会)の説教、聖餐式、新成人祝福式がなされた。席上献金は福島県原発被災者とフィリピンの台風被災者救済のためにささげられた。礼拝の最後を本大会の恒例になりつつある韓日合同聖歌隊のハレルヤコーラスで締めくくった。主の栄光を讃美するにふさわしい素晴らしい音楽礼拝となった。

一同が会して昼食を共にしたあと、「30年の歩みを振り返って」と題する発表会が持たれた。韓日から4人の証言者が本大会の歴史を語った。前半15年の壮年達の熱い議論中心の大会から、後半15年の女性と青年達が合流し、ともに讃美することが大きな目標になった本大会の変遷が紹介された。また、貴重な写真集のスライド上映で映像でも本大会の歴史を確認した。

午後からは市岡裕子さんによる讃美(ゴスペル)コンサートがあった。市岡さんは吉本新喜劇の看板役者であった故岡八郎さんの長女である。数々の家庭における不幸を主の愛とゴスペルで乗り越えた涙と笑いと感動に満ち溢れた半生が語られ、一同胸を熱くした。

両教会の宣教協約締結から30年という節目の年に、韓日の信徒が集って共に礼拝をささげ、魂の交流をするということの意義を各自が再確認した。この記念の大会に趙重來総会長と日本基督教団の石橋秀夫総会議長からも祝いと激励の手紙が寄せられた。30年という長い年月の間、この大会が途切れることなく続けられたということは神の奇跡の一つである。協約が締結されるや直ちに実行委員会を組織し、1年以内に第1回目の大会を実現した草創期の先輩方のご苦勞に深く感謝したい。その間天に召された方も多いが、天国でもきっと韓日の交わりを続けていることと思う。

(報告：林英宰、武庫川教会)



＜記念の第30回大会に参加して＞

日本基督教団の一人として寄稿します。教会の先輩にさそわれて第1回大会(1985年1月15日、教団甲南教会)に出席した私は、在日の方々とお会いして顔の奥から日本人に苦しめられたご祖父母、ご両親の顔がのぞいてくるような初印象を受けました。分団でも人権問題、とくに指紋押捺問題や差別の問題、戦争責任問題が議論になりました。回を重ねていくうち、隣人として宣教の共通課題を受けとめる雰囲気生まれてきたように感じます。実行委員として大会の準備段階から共に祈り、議論し働いているうちに理解と親しみが自ずと生まれてきました。主イエスの導きのもとに祈り準備するということのゆえでしょう。嬉しい恵みです。

今回第30回大会において、愛餐会に続いて韓日からの4名の証言者のうちの一人として話す機会が与えられました。私の依拠した資料は1984年1月16日の「壮年代表者会」での金吉雄長老(武庫川教会)の発題講演と、1984年2月8日に結ばれた両教会の宣教協約です。在日大韓基督教会は、1907年留学生対象に東京に韓国人YMCAが設立され、翌1908年宣教師が韓国から派遣されたことに始まりますが、2年後の1910年に日本は日韓併合を起こし、30年代に満州事変と日中戦争を起こして、近隣諸国、在日の方々、またキリスト教会には苦難と迫害の歴史が続きました。1941年6月、国の宗教政策で日本基督教団に強制編入されましたが、日本の敗戦により1945年以降在日大韓基督教会は教団から脱退し独自の歩みを再び始めます。1984年の宣教協約にいたるまでにたどったこの歴史をしっかりと銘記しなくてはなりません。今また「暗い時代」の到来を予感させる事態の進行がみられる中で、日韓キリスト者はこうした動きに無関心であってはならないと思います。

第1回大会から今回の30回までの歩みの中で、両教会のキリスト者が出会い、共に主を讃美できたことを大きい恵みと感じ、感謝の念で充たされています。

「苦難の中から主に助けを求めて叫ぶと主は彼らを苦しみから導き出された。」(詩編107篇6,13,19,28)

(報告：安井修二、日本基督教団神戸教会)





THE GOSPEL NEWS

재일대한기독교회
선교 100-110 주년 표어
감사의 백년, 소망의 백년
(데살로니가전서 5:18)

한글판

shinacho2003@daum.net (담당자)

<제 10 회 WCC 부산총회> - 보고 -

생명의 하나님, 우리를 정의와 평화로 이끄소서

전혀 예상하지 않았던 WCC 제 10 회 총회에 출석하도록 권유를 받은 것은 작년 10 월 중순쯤인 개최가 2 주 후에 임박한 시점이었다. 동아시아에서 열리는 최초의 총회, 그것도 조국 한국에서의 개최기에 흥미가 없었다고 하면 거짓말이겠지만, 향후 몇 십 년에 걸쳐 세계 에큐메니컬운동의 지침이 되며 신학적인 논의에 계속해서 인용되어질 큰 이벤트는 나와 먼 세계의 일인 줄 알았었다.



아슬아슬하게 총대 변경수속을 밟아서 갔던 부산 벅스코의 회의장 건물 정면에는 “생명의 하나님, 우리를 정의와 평화로 이끄소서” 라는 주제가 영어, 불어, 스페인어 한국어 등 각국 언어로 인쇄된 커다란 깃발들이 휘날리는 것을 보았을 때, “아, 한 하나님 아래 정말로 온 세계에서 주님의 백성들이 모였구나” 라는 감격에 눈물로 흐려졌다.

비행기 시간관계로 아쉽게도 개회예배에 참석할 수 없었으나 첫날 오후 개회식에서 보여준 한국교회의 프레젠테이션은 그야말로 압권이었다.

북미교회에 의한 선교와 평양 대부흥, 일제 식민지시대와 3.1 독립운동, 6.25 동란, 그리고 전후 교회성장의 발걸음에 이르기까지, 영상과 음향, 음악과 무용 등 온갖 시청각적인 방법을 동원하면서 민족문화의 색채를 효과적으로 사용하며 표현한 정말 멋진 작품이었다.

재일한국인인 나 자신도 그 안에 표현되어진 한국기독교의 계보를 잇는 사람임을 확인하고 감격하면서, 한편으로 이렇게 커다란 무대작품을 준비하고 가능하게 하는 한국교회의 저력을 느꼈다.



개회식뿐 만이 아니라 WCC 총회 운영 전반에 걸쳐 한국교회의 개회국으로서의 의욕과 기세를 여기저기서 피부로 느낄 수 있었다. 거대한 회의장과 빈틈없는 준비, 동원된 일꾼들의 숫자, 참가자들을 위한 섬세한 배려 등은 지금까지의 WCC 총회 수준을 한층 더 끌어올렸다는 평을 들을 수 있을 정도였다.

전세계 기독교 관련단체 전시장인 Madang(마당)에는 KCCJ 전국교회여성연합회가 전시회 부스를 만들어 활동 소개와 전시를 하고 있었다. 박영자총무가 프레젠테이션을 하는 동안 부스에는 조종래총회장, 김병호총간사를 비롯하여 재일대한기독교회에서의 참가자와 재일대한기독교회와 깊은 인연을 가진 양형준목사, 정숙자목사 등 약 30 여명이 모여 붐비기도 하였다.



이렇게 많은 재일대한기독교회 관계자들을 WCC 총회 회장에서 만날 수 있음에 또 한번 감격을 하면서, 이것도 WCC 총회 부산개최의 덕택이구나 라는 생각을 했다.

(다음 호에 계속)

(보고 : 허백기목사, 츠쿠바동경교회 / 총회사무국간사)

< 2.8 독립선언 기념식 >

재일본 한국 YMCA 에서 개최

1919 년 2 월 8 일 일본 동경에서 600 여명의 유학생들이 중심이 되어 불법적인 민족통치를 거부하고 자주독립과 민족자결의 의사를 세계 만방에 알린 독립선언이 재일본한국 YMCA 에서 선포되었다.

이 2.8 독립선언이 도화선이 되어 본국에서 3.1 독립만세운동의 직접적인 계기와 모체가 되었으며, 같은 해 4 월에는 상해임시정부 수립이라는 소중한 결실을 맺어 1920 년대의 청년과 학생들의 항일투쟁에 결정적인 영향을 미쳤다. 또한 이 독립선언의 숭고한 정신은 조국의 광복은 물론 대한민국의 건국정신에도 이바지 하였다.



이러한 2.8 독립선언의 정신을 계승하고 조국과 재일동포 사회의 화해와 협력, 그리고 평화롭고 공정한 한일 양국의 발전을 도모하기 위해 올해 제 95 주년을 맞이하여 예년대로 동경에 있는 재일본 한국 YMCA 에서 기념식이 열렸다. 올해는 95 년 전과 마찬가지로 폭설 속에서 진행되었는데 본국과 일본에서의 내빈과 많은 참가자들이 함께 하였다.

먼저 김수남총무의 사회로 시작되어 동경한국학교 어머니합창단의 <2.8 독립 선언의 노래>와 국민의례에 이어서 순국선열과 선배 지도자들에 대한 묵념을 한 다음 김광조이사장의 개식사, 이병기 주일본 대한민국 특명전권대사와 이경근대한민국 국가보훈처 보훈선양국장의 기념사, 배중도부이사장의 성경봉독, 김건목사(재일대한기독교회 관동지방회회장, 카와사키교회)의 기도, 한승우 재일한국 유학생연합회 회장의 2.8 독립선언문을 낭독으로 이어졌다.

계속해서 박유철광복회회장과 임삼호재일본 대한민국 민단중앙본부 부단장이 치사를 한 후에 동경 한국학교 어머니합창단이 특별 순서로 <아리랑 메들리>를 불렀으며, 동경 한국학교 합창단 칸타빌레 학생들이 <밝게 빛나는 노래>를 불렀다.

마지막으로 서울 YMCA 의 표용은 명예이사장(원로목사)이 축도를 한 후에, 재일본 대한민국 청년회 중앙본부 서서황회장의 인도로 일동이 만세 삼창을 하고 마쳤다.

(보고 : 편집부)

<서남지방회>

신년 사경회 및 도 제직회



지난 1 월 12 일 (주일) ~ 13 일 (월), 서남지방회에서는 「2014 년도 서남지방회 정초 사경회 및 제직회」를 전도부 (부장 : 권영국목사, 후쿠오카교회) 주최로 벳부교회 (담임 : 신치선목사)에 64 명이 모여 개최되었다.

개회예배는 주문홍목사 (코쿠라교회)의 사회로 강부자장로 (오리오교회)의 기도 후에 벳부교회 청년들의 특별찬양있었다. 그 후에 감사인 홍성완목사 (전, 종간사)는 다니엘서를 통하여 주제인 [하나님의 성실]에 대하여 뜨겁게 전하였다. 먼저 <하나님의 진실에 산다>(다니엘 1:1-21)라는 제목으로 강연을 한 후에 벳부교회가 준비한 애찬을 통하여 새해인사와 교제를 가졌다.

이어서 최영신목사 (우베교회)의 사회로 김정명장로 (우베교회)의 기도 후에 홍목사는 다니엘서 2 장을 중심으로 <성경의 역사관>이라는 제목으로 강연하였다. 이어서 김명균목사 (지방회장, 후쿠오카 중앙교회)의 사회로 제직회가 열렸다. 참가자들은 각 교회의 2014 년도 비전과 과제 등을 소개하였으며 모두가 합심하여 기도한 후에 이해란목사 (프레지던트전도소)의 밤 기도로 첫날 프로그램을 마쳤다.

둘째 날은 각자의 방에서 아침기도회를 가진 후에 아침 식사를 마치고 교회로 이동하여 정재식목사 (시모노세키교회)의 사회와 이규철장로 (오리오교회)의 기도 후에 홍성완목사가 <고난과 신앙>(다니엘 3:13-30)이라는 제목으로 마지막 강연을 하였다. 이어서 질의응답을 한 후에 폐회예배는 정수환목사 (오리오교회)의 김정자장로 (코쿠라 교회)의 기도 후에 홍목사가 <하나님의 손과 예수의 손가락이 쓰는 글자>(다니엘 5:13 -30, 요한복음 8:6)라는 제목으로 설교하므로 정초 사경회를 모두 마쳤다. 마지막으로 최윤성안수집사 (후쿠오카교회)의 기도로 점심을 마치고 각각 해산하였다. (보고 : 권영국)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様のお会議及び宿泊研修(50名)も可能。
・スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】

税 込	平 日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャンゴ】

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025

*会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京都千代田区猿樂町 2-5-5 ☎ 03-3233-0611

大阪市東成区中道 3-14-15 ☎ 06-6981-0782

<관서지방회> 교토교회 임해철장로 찬양과 간증집회

2013 년 12 월 1 일 (주일) 오후 2 시부터 교토교회에서는 약 120 여 명이 참가하여 임해철장로 (광주 동성교회, 호남신학대학교 음악과 교수) 의 찬양과 간증 집회가 열렸다. 임장로는 연세대학교와 로마 국립음악원을 졸업한 후에 유럽에서 활약했지만 2011 년 8 월에 한국에서 심장이식 수술을 받았다. 그러나 수술 후에도 음악활동을 통하여 주님으로부터 다시 부여 받은 생명에 감사하면서 찬양 간증사역을 하고 있다.



그래서 한국 국내는 물론이지만 일본과 홍콩 등 여러 나라와 교회에서 찬양과 간증을 하고 있다. 이번에는 지난 11 월 30 일 (토) 에 <특별 양호 노인 홈 고향의 집> 에서 집회를 인도한 후에 12 월 1 일 (주일) 오전에는 재일대한기독교교회 교토 남부교회 예배에 참석 한 뒤, 교토교회에서 은혜의 집회의 시간을 인도하였다.

임장로는 “예수의 심장으로” (갈라디아 2:20) 라는 제목으로 간증을 하면서 한국의 가곡 및 <Glory> <한 번 죽었던 몸도> <어린 양들이 두려워하지 마라> <예수보다 더 귀한 것은 없네> 등을 멋진 바리톤으로 찬양하였다. 이 집회에는 <고향의 집> 의 직원과 일본 교인들을 비롯하여 미신자들도 많이 참석하였는데 참가자 일동은 큰 감동과 많은 은혜의 시간을 함께 나눌 수 있었다. 앞으로 임장로의 건강과 사역에 대해 주님께 기도함과 동시에 더욱 귀한 전도의 터를 마련해 주신 주님께 감사한다. (보고 : 유정근)

신간 예식서 개정판

- 한국어 일본어 대조
- 모든 예식에 적용
- 전국 개교회에서도 활용
- 1 권 2,000 엔 (송료별)
- 문의 : 총회사무실 03-3202-5398

<관동지방회> 미토교회 4 대가 함께하는 가정예배



관동지방회 이바라키현에 있는 미토교회에는 4 대가 함께 신앙생활을 하고 있는 장조웅집사, 서인순권사 가정이 있다. 특별히 이 가정에서는 평상시의 가정예배 외에 1 년에 한번 날을 정하여 미토교회에서 특별 가정예배를 드린다. 이때 교회를 다니는 가족은 물론이고 다니지 않는 사위나 며느리, 손자, 친척들까지, 시할머니부터 어린 증손자까지 모인다.

지난해 12 월에도 21 명이 미토교회에 모여 담임목사의 인도아래, 찬양을 드리며 지금까지 보호하여 주시고 돌보아 주신 은혜에 감사사를 드리며 하나님께 가정예배를 드렸다. 미토교회의 담임목사인 한재문목사는 이 가정이 가정예배를 드릴 때 마다 설교를 통하여 <지금은 가족 중의 반은 매주일 교회에 나오고 반은 교회를 가끔 나오고 있지만 하루 속히 전 가족들이 매주일 교회에서 예배를 드리기를 기도하고 있다> 고 전했다.

장조웅집사는 지난 3.11 대지진 때, 월세 교회건물이 부서져 예배드릴 곳이 없어지자 본인 사업장의 이름을 빌려 새 교회의 건물을 구입하는 데 결정적인 역할을 한 미토교회에서 중심적인 집사다. 또한 감사한 것은 주님 일에 아낌없이 헌신하며 부인 서인순권사와 함께 그들이 운영하는 사업장에도 부어주시는 은혜를 보면서 많은 교인들이 실제로 믿음과 헌신에 큰 도전을 받고 있다.

이에 한목사는 <재일대한기독교교회 모든 교회 신도들의 가정이 이 가정처럼 하나님과 교회 안에서 모범된 가정이 되어 일본선교에 큰 디딤돌이 되었으면 좋겠다> 고 말했다.

(보고 : 한재문)

재일 한국인 귀화인 재혼 희망자 전문

芦屋ルツ결혼상담소

마음과 기도를 다하여!
44044444 44444444 44444444 44444444

대표 : 최정숙권사 (코베동부교회 권사)

-0012 兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町 10-35-504

TEL : 0797-34-6814 / FAX:0797-38-6868

URLwww.ar-k.jp / e-mail : gen@rehoboth.jp



豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 吳永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店 : 東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

<서부지방회 / 효고교구> 제 30 회 한일교류 신도대회 개최

지난 1월 13일(월)에 재일대한기독교교회 서부지방회와 일본기독교단 효고교구(兵庫教区) 공동 주최로 [제 30 회 한일교류 신도대회]가 교단 甲東教会에서 개최되었다. 이 대회는 1984년에 재일대한기독교교회와 일본기독교단 사이에 맺어진 선교협약을 근거로 협약의 실시를 목표로 1985년부터 매년 1월의 성인의 날에 개최해 오고 있다.

이번은 제 30 회 기념대회가 되었다. 당일에는 약 167명(서부지방회 47명, 효고교구 120명)의 많은 참가자 속에서, 개최예배는 음악예배로 드러졌다. 히시다(菱田聡一郎, 甲東教会) 대회위원장의 사회로 기도와 봉독, 성가대 합창과 독창, 회중 찬송과 전 회중이 참여하는 형태로 주 예수님의 생애를 찬양했다. 그리고 니시자와(西澤他喜衛牧師, 甲東教会) 목사가 “사건 뒤에”라는 제목으로 설교한 후에, 성찬식과 새로운 성인 축복식으로 이어졌다. 또한 후쿠시마현의 원전 피해자와 필리핀 태풍피해자 구제를 위한 헌금도 하였다. 예배의 마지막은 예년처럼 한일 연합합창단의 할렐루야 코러스로 막을 내렸다. 주님의 영광을 찬양하기에 어울리는 멋진 음악 예배였다.

일동은 점심을 함께 한 뒤에 “30년의 발자취를 되돌아보고”라는 제목으로 발표회를 가졌다. 한일 측에서 4명의 증언자가 본 대회의 역사를 전했다. 전반 15년간은 장년들의 뜨거운 토론중심의 대회였지만 후반 15년은 여성과 청년들이 합류하여 함께 찬양하는 것이 큰 목표가 된 변천의 역사가 소개되었다. 더불어 귀중한 사진집 슬라이드 상영을 통하여 영상으로서도 본 대회의 역사를 확인하였다.

오후부터는 이찌오카유우코(市岡裕子)씨의 찬양(복음송)콘서트가 있었다. 이찌오카씨는 요시모토신희극(吉本新喜劇)의 간판 배우였던 고 오카하찌로(岡八郎)씨의 장녀이다. 수 많은 가정의 불행은 주님의 사랑과 복음으로 극복한 눈물과 웃음과 감동이 넘치는 생애를 전하자 일동은 감동하면서 가슴이 뜨거워졌다.

올해는 양 교단의 선교협약체결 30년이라고 하는 기념적인 해로 한일 성도가 모여서 함께 예배를 드리고 영혼의 교류를 하는 것의 의미를 각자가 재확인하였다. 또한 조중래총회장장과 일본기독교단단의 이시바시히데오 총회의장(石橋秀夫総会議長)도 축하와 격려의 편지를 보내왔다.

30년이라는 긴 세월 동안 이 대회가 중단 없이 계속 된 것은 하나님의 기적 중의 하나이다. 선교협약이 체결되자 즉시 실행위원회를 조직하고 1년 이내에 제 1차 대회를 실시 한 초창기 선배들의 수고에 깊이 감사 드린다. 그 동안 하나님의 부르심을 받은 분들도 많지만, 천국에서도 반드시 한일의 교제를 계속 이어가고 있을 것으로 믿는다.

(보고: 임영재, 무코가와교회)



<제 30 회 신도대회에 참가하여>

일본기독교단단의 한 교인으로서 기고합니다. 교회 선배의 권유로 제 1 회 대회(1985년 1월 15일, 教団甲南教会)에 참석 한 저는 재일 분들과 만나 얼굴 안쪽에서 일본인들에게 시달렸던 조부모와 부모님들의 얼굴을 들여다 보는 듯한 첫 인상을 받았습니다. 분단토의에서도 인권문제, 특히 지문날인문제와 차별문제, 전쟁책임 문제가 논의되었습니다. 대회를 거듭해 오는 동안 이웃으로서의 선교의 공통과제를 받아들일 수 있는 분위기가 잉태되어가는 것으로 느껴집니다. 실행위원으로 대회 준비단계부터 함께 기도하면서 논의하는 동안에 이해와 친분이 저절로 생겨났습니다. 주 예수님의 인도아래 기도하고 준비하였기 때문이겠지요. 정말 기쁜 은혜입니다.

이번 제 30 회 대회에서 애찬에 이어서 한일에서 4명의 증언자 중 한 사람으로서 발표할 기회가 주어졌습니다. 제가 가지고 있는 자료에 의하면 1984년 1월 16일에 [장년 대표자회]에서의 김길웅장로(무코가와교회)의 발제강연과 1984년 2월 8일에 맺은 두 교단의 선교협약입니다. 재일대한기독교교회는 1907년에 유학생을 대상으로 동경한국 YMCA가 설립되어, 이듬 해인 1908년 선교사들이 한국에서 파견 된 것으로 시작되었습니다. 이어서 2년 후인 1910년에 일본은 한일합방을 하고, 30년대에는 만주사변과 중일전쟁을 일으켜 이웃 나라들과 재일조선인들과 교회에 고난과 박해의 역사가 계속되었습니다.

1941년 6월, 국가의 종교정책으로 재일대한기독교교회는 일본기독교단단에 강제로 편입되었습니다만, 일본의 패전에 의해 1945년 이후에 교단에서 탈퇴하여 독자적인 행보를 다시 시작합니다. 1984년 선교협약에 이르기까지 걸어온 이 역사를 제대로 명기하지 않으면 안됩니다. 지금 또한 ‘어두운 시대’의 도래를 예감시키는 사태의 진행을 보이는 가운데, 한일 그리스도인들은 이러한 움직임에 무관심해서는 안된다고 생각합니다.

제 1 회 대회부터 이번 30 회까지의 행보 속에서 두 교회의 그리스도인들이 만나서 함께 주님을 찬양할 수 있었던 것을 큰 은혜로 느끼면서 감사로 충만해 있습니다.

[그 고통가운데 그들이 여호와께 부르짖었더니 그분이 그들을 고통에서 건져주셨다](시편 107: 6, 13, 19, 28)

(보고: 安井修二、일본기독교단 코우베교회)

